



2026年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年8月6日

上場会社名 スターツ出版株式会社 上場取引所 東
コード番号 7849 URL <https://starts-pub.jp/>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）関根 赴治
問合せ先責任者 （役職名）常務取締役管理部長 （氏名）金子 弘 TEL 03-6202-0311
半期報告書提出予定日 2026年8月7日 配当支払開始予定日 2026年9月18日
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年12月期第2四半期（中間期）の業績（2026年1月1日～2026年6月30日）

（1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年12月期中間期	3,876	2.8	501	△33.1	620	△25.4	445	△32.0
2025年12月期中間期	3,771	△11.9	749	△36.3	832	△33.9	655	△31.9

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期中間期	116.88	—
2025年12月期中間期	170.75	—

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	％	円 銭
2026年12月期中間期	12,966	10,798	83.3	2,837.24
2025年12月期	12,902	10,772	83.5	2,805.78

（参考）自己資本 2026年12月期中間期 10,798百万円 2025年12月期 10,772百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	—	40.00	—	80.00	120.00
2026年12月期	—	50.00			
2026年12月期（予想）			—	80.00	130.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年12月期の業績予想（2026年1月1日～2026年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	8,200	0.7	1,300	△26.0	1,480	△21.1	1,030	△25.2	270.13

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年12月期中間期	3,840,000株	2025年12月期	3,840,000株
② 期末自己株式数	2026年12月期中間期	34,140株	2025年12月期	440株
③ 期中平均株式数（中間期）	2026年12月期中間期	3,812,986株	2025年12月期中間期	3,839,591株

(注) 期末自己株式数には、従業員持株会支援信託ESOP信託口が保有している当社株式(2026年12月期中間期33,700株)を含めております。また、従業員持株会支援信託ESOP信託口が保有している当社株式を期中平均株式数の計算において控除する自己株式を含めております。

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手可能な情報に基づき作成したもので、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は今後の様々な要因によって大きく異なる可能性があります。なお、業績見通し等に関する事項はP. 3「1. 当中間決算に関する定性的情報の(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	6
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間会計期間におけるわが国経済は、中東情勢の緊迫化が景気の下振れリスクとなるものの、雇用・所得環境の改善による個人消費の持ち直しや堅調な企業業績を背景に緩やかな回復基調で推移しました。

このような状況の中で、当社は「感動プロデュース企業へ」という経営ビジョンのもと「文化と笑顔の需要創造」をミッションに掲げ、紙・電子出版による書籍、コミック、雑誌の発行、「野いちご」等の小説サイトの運営、女性向けWEBサイト「オズモール」での情報発信や施設予約サービスの提供、イベント開催等とそれらを掛け合わせたPR・販促ソリューションの提供を軸として事業を運営してまいりました。また、2026年2月に従業員の福利厚生制度の拡充などにより、当社の中長期的な企業価値の向上を図ることを目的として、従業員持株会支援信託ESOPを導入いたしました。

当中間会計期間における売上高は、前年同期と比較して、書籍コンテンツ事業におけるヒット作品の増収効果等により増加いたしました。利益面は、コミックの発刊点数拡大のための先行投資に加え、物価高による書籍の印刷費等の製造原価の上昇、人件費の増加等により減少いたしました。

このような営業活動の結果、当中間会計期間の売上高は38億76百万円（前年同期比2.8%増）、営業利益は5億1百万円（前年同期比33.1%減）、経常利益は6億20百万円（前年同期比25.4%減）、中間純利益は4億45百万円（前年同期比32.0%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

<書籍コンテンツ事業>

書籍コンテンツ事業では、自社で運営する小説サイト「野いちご」「ベリーズカフェ」「ノベマ!」を起点に、独自のマーケティングにより恋愛小説から異世界ファンタジー、ライト文芸まで幅広いジャンルの作品を書籍・コミックとして発刊しております。

当中間会計期間は、新レーベルの創刊、マーケティングの徹底による読者ニーズに沿った商品展開、映像化等のIP展開やSNS等を活用した販促施策に注力してまいりました。

書籍・コミックの売上高は、3月に実写映画化された小説・コミック「鬼の花嫁」を含むヒット作品の増収効果等により、前年同期と比較して増加いたしました。営業利益は、コミックの発刊点数拡大に向けた先行投資や物価高による印刷費等の製造原価の上昇、人件費の増加により減少しております。

このような営業活動の結果、書籍コンテンツ事業の売上高は23億31百万円（前年同期比6.2%増）、営業利益は5億43百万円（前年同期比25.2%減）となりました。

<メディアソリューション事業>

メディアソリューション事業では、オリジナルのマーケティング・モデルを創造するという戦略のもと、当社独自の基準で厳選したレストラン、ビューティサロン、宿泊施設の施設予約サービスを提供する「オズのプレミアム予約」と、「オズモール」「オズマガジン」「メトロミニッツ」等の東京地域密着の自社メディアとSNS、リアルイベントを組み合わせたPR・販促ソリューションを展開してまいりました。

「オズのプレミアム予約」では、利用満足度の高い施設を厳選して掲載するとともに、オズ限定プランなどによる予約可能施設の拡充や、クーポン活用を含む集客施策を通じたユーザー満足度向上に継続的に取り組んでまいりました。「オズのプレミアム予約」の売上高は、掲載店舗の拡大や関西エリアでの予約組数の増加等により、レストラン予約の売上が堅調に推移したため、前年同期と比較して増加いたしました。

PR・販促ソリューションでは、「オズマガジン」等の東京地域密着メディアのブランドを活用した商業施設向けの集客支援、自治体向けの魅力発信支援、ヘルスケアマーケットへの販促支援サービス等を提供してまいりました。PR・販促ソリューションの売上高は、前年同期と比較して受注数が下回ったことにより、減少いたしました。

また、当事業の営業利益は、AI検索の浸透に伴う顧客獲得環境の変化を受け、「オズのプレミアム予約」の広告宣伝費が増加し、前年同期と比較して減少いたしました。

このような営業活動の結果、メディアソリューション事業の売上高は15億45百万円（前年同期比2.0%減）、営業利益は39百万円（前年同期比56.3%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

(資産)

当中間会計期間末の総資産は、前事業年度末と比べて64百万円増加し、129億66百万円となりました。

流動資産は、関係会社預け金が20億円増加した一方で、現金及び預金が14億11百万円、売掛金及び契約資産が5億96百万円減少したこと等により、前事業年度末に比べて6百万円減少し、103億76百万円となりました。

固定資産は、前事業年度末と比べて70百万円増加し、25億89百万円となりました。

(負債)

当中間会計期間末の負債は、前事業年度末と比べて38百万円増加し、21億68百万円となりました。

流動負債は、未払消費税が15百万円増加した一方で、未払法人税等が43百万円、買掛金が27百万円、未払金が19百万円減少したこと等により、前事業年度末と比べて57百万円減少し、18億14百万円となりました。

固定負債は、従業員持株会支援信託ESOP導入に伴う信託口に対する債務保証額としての長期借入金1億20百万円等により前事業年度末と比べて96百万円増加し、3億53百万円となりました。

(純資産)

当中間会計期間末の純資産は、中間純利益の計上4億45百万円と配当金の支払3億7百万円により利益剰余金が1億38百万円増加したこと等により、前事業年度末に比べて25百万円増加し、107億98百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間における現金および現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ14億11百万円減少し、41億61百万円となりました。

当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払額2億18百万円、仕入債務の減少27百万円、棚卸資産の増加19百万円等による資金の使用の一方で、税引前中間純利益6億20百万円、売上債権の減少5億96百万円等の資金の獲得により、9億66百万円の資金を獲得（前年同期は8億91百万円の資金を獲得）いたしました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、関係会社預け金の預け入れによる支出20億円、出資金の払込による支出38百万円等により、20億71百万円の資金を使用（前年同期は1億82百万円の資金を使用）いたしました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払等により、3億6百万円の資金を使用（前年同期は3億6百万円の資金を使用）いたしました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年2月12日に公表いたしました業績予想の修正を行っております。詳細につきましては、2026年8月6日公表の「第2四半期(中間期)業績予想と実績値の差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年12月31日)	当中間会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,573,685	4,161,726
売掛金及び契約資産	2,834,898	2,238,518
製品	124,220	130,638
仕掛品	89,091	102,104
返品資産	203,620	182,309
前払費用	27,368	55,491
関係会社預け金	1,500,000	3,500,000
その他	32,007	7,100
貸倒引当金	△1,526	△1,301
流動資産合計	10,383,367	10,376,586
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備（純額）	26,916	24,985
工具、器具及び備品（純額）	13,097	11,933
有形固定資産合計	40,014	36,919
無形固定資産		
商標権	152	125
ソフトウェア	145,894	144,363
ソフトウェア仮勘定	4,142	4,368
電話加入権	2,376	2,376
無形固定資産合計	152,564	151,233
投資その他の資産		
親会社株式	1,036,431	982,281
関係会社株式	154,404	154,404
投資有価証券	883,374	948,804
関係会社長期貸付金	40,000	40,000
差入保証金	74,764	78,883
前払年金費用	98,448	117,387
その他	38,729	79,647
投資その他の資産合計	2,326,152	2,401,408
固定資産合計	2,518,731	2,589,560
資産合計	12,902,098	12,966,147

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年12月31日)	当中間会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	582,527	554,559
未払金	78,894	59,783
未払費用	47,115	49,545
未払法人税等	153,569	110,370
未払事業所税	4,774	2,373
未払消費税等	—	15,937
前受金	4,928	18,728
預り金	32,868	46,386
賞与引当金	78,000	86,000
返金負債	766,023	749,072
ポイント引当金	123,402	122,065
流動負債合計	1,872,104	1,814,823
固定負債		
繰延税金負債	188,566	188,519
役員退職慰労引当金	68,475	43,156
長期借入金	—	120,240
その他	—	1,273
固定負債合計	257,041	353,189
負債合計	2,129,146	2,168,012
純資産の部		
株主資本		
資本金	540,875	540,875
資本剰余金	536,125	536,125
利益剰余金	8,956,548	9,095,041
自己株式	△903	△120,707
株主資本合計	10,032,644	10,051,333
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	740,307	746,801
評価・換算差額等合計	740,307	746,801
純資産合計	10,772,951	10,798,135
負債純資産合計	12,902,098	12,966,147

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2025年 1 月 1 日 至 2025年 6 月 30 日)	当中間会計期間 (自 2026年 1 月 1 日 至 2026年 6 月 30 日)
売上高	3,771,739	3,876,422
売上原価	1,875,408	2,057,041
売上総利益	1,896,330	1,819,380
販売費及び一般管理費	1,147,302	1,318,070
営業利益	749,028	501,310
営業外収益		
受取利息	7,781	28,305
受取配当金	71,503	86,390
雑収入	3,731	4,297
その他	—	234
営業外収益合計	83,016	119,228
営業外費用		
雑損失	—	0
営業外費用合計	—	0
経常利益	832,045	620,539
特別利益		
投資有価証券売却益	49,321	—
特別利益合計	49,321	—
特別損失		
固定資産除却損	53	—
特別損失合計	53	—
税引前中間純利益	881,313	620,539
法人税、住民税及び事業税	212,180	177,917
法人税等調整額	13,537	△3,036
法人税等合計	225,718	174,881
中間純利益	655,595	445,658

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	881,313	620,539
減価償却費	32,457	31,361
固定資産除却損	53	—
投資有価証券売却損益(△は益)	△49,321	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	128	△224
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	3,250	△25,319
賞与引当金の増減額(△は減少)	△18,000	8,000
返金負債の増減額(△は減少)	△107,512	△16,951
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△1,069	△1,337
受取利息及び受取配当金	△79,285	△114,696
売上債権の増減額(△は増加)	558,319	596,380
棚卸資産の増減額(△は増加)	△11,213	△19,430
返品資産の増減額(△は増加)	21,721	21,311
その他の資産の増減額(△は増加)	△39,229	△28,152
仕入債務の増減額(△は減少)	△37,454	△27,967
未払金の増減額(△は減少)	11,744	△17,663
未払消費税等の増減額(△は減少)	△53,091	15,937
その他の負債の増減額(△は減少)	2,646	27,345
その他	△4,422	3,308
小計	1,111,032	1,072,440
利息及び配当金の受取額	79,285	112,899
法人税等の支払額	△299,011	△218,826
営業活動によるキャッシュ・フロー	891,307	966,513
投資活動によるキャッシュ・フロー		
関係会社株式の取得による支出	△154,404	—
関係会社貸付けによる支出	△40,000	—
関係会社預け金の預け入れによる支出	—	△2,000,000
有形固定資産の取得による支出	△3,911	△892
無形固定資産の取得による支出	△31,826	△26,572
保険積立金の積立による支出	△694	△694
投資有価証券の売却による収入	54,215	—
出資金の払込による支出	△5,500	△38,500
その他	△349	△4,846
投資活動によるキャッシュ・フロー	△182,471	△2,071,505
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	—	135,000
長期借入金の返済による支出	—	△14,760
配当金の支払額	△306,431	△307,403
自己株式の取得による支出	△113	△134,735
その他	—	14,931
財務活動によるキャッシュ・フロー	△306,545	△306,967
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	402,290	△1,411,959
現金及び現金同等物の期首残高	6,219,450	5,573,685
現金及び現金同等物の中間期末残高	6,621,741	4,161,726

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間会計期間(自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント		計	調整額(注1)	中間 損益計算書 計上額 (注2)
	書籍コンテンツ 事業	メディアソリューション事業			
売上高 顧客との契約から 生じる収益	2,195,506	1,576,232	3,771,739	—	3,771,739
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	2,195,506	1,576,232	3,771,739	—	3,771,739
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,195,506	1,576,232	3,771,739	—	3,771,739
セグメント利益	726,471	89,308	815,780	△66,751	749,028

(注) 1. セグメント利益の調整額△66,751千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用になります。

2. セグメント利益は、中間損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当中間会計期間(自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント		計	調整額(注1)	中間 損益計算書 計上額 (注2)
	書籍コンテンツ 事業	メディアソリューション事業			
売上高 顧客との契約から 生じる収益	2,331,242	1,545,179	3,876,422	—	3,876,422
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	2,331,242	1,545,179	3,876,422	—	3,876,422
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,331,242	1,545,179	3,876,422	—	3,876,422
セグメント利益	543,337	39,043	582,380	△81,070	501,310

(注) 1. セグメント利益の調整額△81,070千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用になります。

2. セグメント利益は、中間損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。